

## まちづくり懇談会 山岡

日時：平成 30 年 9 月 11 日（火）午後 7 時～8 時 30 分

場所：山岡振興事務所 2 階大会議室

---

### 4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■市長 本日はまちづくり懇談会初日だ。水野会長以下、地域自治区の皆様のお骨折りで設営して頂きありがとうございます。地元の後藤議長、佐々木先生にも同席頂きありがとうございます。

昨年も山岡町が初日だった。先の台風 21 号、9 月 4、5 日に大変な風が吹きその後大雨が降った。建設課長から聞くと、山岡地域でも災害が何カ所か出ている。道路が 5 カ所、河川も 5 カ所。恵南地域でも山岡町で一番雨が降った。なるべく早期に復旧出来るように努力する。

まず全体の話をして、その後、山岡町の個別の話を企画部長からする。

人口について。人口はまちのバロメーターだ。どのぐらい人口が動いているかは大変重要なことだ。平成 28 年から 29 年に対して、かなり減ってきている。49,703 人になっている。気にしてほしいのは世帯数。人口が減るにもかかわらず昨年までは増えてきたがいよいよ世帯の数も減り始めた。そうすると本当の意味で人口の減少が始まる。危機感を持って引き続き取り組まないといけない。平成 17 年を 100 としたとき、12 年後、 $-10.9\%$ 。昨年とあまり変わらない。生まれた子どもの数は昨年 290 人。今年は若干上向き 297 人。28 年までガクッと落ちたのが 29 年になり 3 つの町で少しだけ上向いた。平成 17 年を 100 とすると $-29.3\%$ 。7 割しか生まれていない。が、恵那市と中津川市と土岐市は若干上向いた。

財政について。1 人当たりの行政コスト。昨年は 51.3 千円。これが 49.9 千円まで減った。大分コストが落ちてきた。

市の借金、基金、一般会計の規模。一般会計の規模は今年 254 億円、昨年 262 億円で、 $-8$  億円。企業会計、特別会計もそれぞれ減額で、全体として予算は縮小傾向。市の借金は 29 年度末残高 294 億円、交付税で賄われる分を差し引いて実質的な起債も 161 億円。1 人当たり 31 万 6 千円。基金、貯金の方も 166 億円が現在積み上がっており全体では 190 億円。グラフの青い方が市債で、実質的な借金と基金いわゆる貯金が、昨年度ほぼイコールだったが、今年かなり貯金が増えた。財政的には、今積まないでどうする、これからどんどん人口減少していく中で行政コストそのものはそれほど下がらないし大きな事業をこ

れから行うに当たり今のうちに出来ることは行っておこうということで貯金を今一生懸命進めている。

経常収支比率、財政力指数、実質公債費比率。経常収支比率は市のお金の中で経常的に固定費として出ていくのが何%かというもので、去年は 85%、今年は 86%で、8 割から 9 割の間。東濃 5 市を見ても、多治見、土岐、瑞浪、中津川、全部が 80%から 90%の間。恵那市が若干だが一番良い。財政力指数は、自主財源をどのくらい持っているか。0.46 で、半分以下。この辺は他の市町に比べて若干弱い。ほとんど去年と変わらない。実質公債費比率は、1 年の会計の中で何%ぐらいを借金に返さないといけないか。借金がどんどん減っているので、そういう意味で 6%まで改善している。過去には 10%を超えていた時期がある。去年は 7.1%、今年が 6%。瑞浪市が 4%、土岐市が 5%、このあたりに近づいてきた。中津川市は 9.9%。

「はたらく」「たべる」「くらす」について。

「はたらく」については、恵那の工業団地で、東海理化という一番大きな会社が今年増築して新たに何人かを雇ったし、三菱が創業した。大きく変わったのは、働く人がいないということだ。企業の皆様にお会いすると、働き手が欲しいと言われる。飲食店でも、働き手がいないために店をやれないという話も聞く。景気が良いと言っただけなんだけど、仕事はあるけど働き手がいないというのが恵那市と、東濃、岐阜県全域の状況。その中で、恵那西工業団地。まきがね公園、西中学校、19 号、中央道があり、この奥に恵那西工業団地を計画してきた。ここに住友理工という企業の立地が新たに決まった。画の中では 3 区画だが実質的には 1 区画で、テストコースと、もしかしたら研究施設も入るということで話が進んでいる。すでに公表されている。

本社機能移転についても市は取り組みを進めている。岐阜県として東濃クロスエリア、本社機能移転推進会議を立ち上げよいよ動き始めた。東濃クロスエリアというのは字の通り、東濃の地域で南北が東海環状、東西が 19 号、中央道といったこのエリアを本社機能移転のためのエリアとして県としても一生懸命取り組んでいくということだ。それに呼応して恵那市として単独でも本社機能の誘致をしたいと思っている。本社機能は、よく古屋代議士と言われるが、工場を建てると労働力の奪い合いになるが、本社機能もしくは研究開発機能は人ごと都会から連れてくるので非常に効果がある。新しい労働力もそこで働くことが出来るようになるので、本社機能について一生懸命行いたいということだ。私もそれに答えられるように頑張っていくよう取り組んでいる。

労働力人口について。総務省のデータから、男性は高校を卒業して大学ぐらいで 9 割以上の人が働き、60 歳ぐらいで定年後急激に就労率が下がる。女性は一度就職するが結婚、出産で一度就業率が下がり、子どもの手が放れると少し就業率が上がり 60 歳を迎えると下がっていく。働き手がいないと先ほど言ったが、この中で働き手が見つかりそうなのは、

M字カーブというが、女性の子育ての部分で労働力としてある。それから 60 歳以上のところに労働力があると言われている。

これに呼応した形で働きやすいまちづくりをしていこうということで今取り組んでいる。昨年立ち上がったのが恵那くらしビジネスサポートセンター。一つは恵那市に移住して頂こうというもので、移住の案内をしたり空き家の紹介をしたりしている。もう一つは、ビジネスのための相談で、新たに恵那市で起業したいとか、すでに商売をしているがもっと分野を広げたいという相談の受け付けをしている。昨年 9 月に開設したが、今年までで相談は、移住に関しては 918 件、ビジネスに関しては 640 件、就職の相談は 85 件。多くの皆様に利用頂いている。恵那駅前にある。こちらをご利用頂きたい。そして、このサポートセンターに新たにシニアワークステーションという機能を付け加えた。これは就業率が下がる 60 歳以上の方々、そういった方々に仕事を何か考えてみませんかということで、セミナーを行ったり研修を行ったり、就労することを考える機会を与えられるように取り組んでいる。会社に対しても、60 歳以上の人材があるので雇って頂けませんかということで会社回りをしてもらっている。2 人体制で働く支援をしている。今年の 4 月に開設した。ぜひご利用頂きたい。

おさしま二葉こども園を建設中。恵那市では最大規模。開園は来年 4 月で、2,300 m<sup>2</sup>で定員 240 人。0 歳からお預かりする。これも、子育て中の母親が少しでも働きやすいようにということだ。長島こども園と二葉こども園が合体して一つの大きなこども園になる。

昨年も申し上げたが、働く人のための企業主導型保育。今は民間の企業が従業員のために保育所を作ることに国や県の助成がある。市も助成している。株式会社デジタという恵那峡の近くにある会社で若い人が 80 人ぐらい働いており、その方々のための認可外の保育所をつくり、今年の 3 月からオープンした。もう一つは小規模保育事業所で、認可保育所だが恵那峡の近くにある。これも国や県の助成金を投入して個人で立ち上げられた。こうした色々なニーズをとらえて民間の人も立ち上がっている。こういったことで働くお母さん方のサポートが出来る。市も引き続き支援していきたい。

病児、病後児保育所。昨年 5 月に旧恵那病院を活用し開設。以来延べ 124 名に利用頂いた。以前は瑞浪の東濃厚生病院の中に預ける場所をつくっていたが、その頃は 1 年間に 5 人程度の利用だった。市内に常設の保育所をつくったことで大変多くの人に利用頂くようになった。前日までの予約制を、4 月からは当日朝でも良いということに見直しており、より利用しやすい病児保育所になる。ぜひご利用頂きたい。

新規認定就農者。平成 26 年から 29 年に 15 名が認定就農者となった。市内で 9 名、愛知県から 4 名、京都、神奈川各 1 名に就農して頂いた。これも県、国の色々な制度を利用して恵那の地で学んで頂いて、農業に携わって頂いている。トマト、養蜂、露地野菜、イチゴ、花きなど、色々な人が活躍している。

「たべる」について。昨年も料理教室についてはお話した。昨年度は年間 8 回、196 名に参加頂いた。評判が良かったので今年も引き続き行い、一般向け 6 回、中学校 4 校、親子で 2 回、すでに親子 1 回は終わっており、46 名 21 組のご参加を頂いた。食に関しては非常に皆さん興味があり、こうしたプロの料理人から習う料理教室も非常に人気がある。これからは食育という意味で小さな子に対してもこういう取り組みをしていくということで広げている。

たべとるマルシェ。地元で採れた野菜を生産者から直接買うもの。こだわって作っていることをぜひ皆さんに知って頂きたいということでスタートした。8、9、10、11、12 月。毎月恵那図書館で 1 回ずつ行っている。時間があれば寄って頂きたい。こんなのを作っているのかということに気付かれると思う。

料理人と生産者のための交流会。野菜や米をつくっている人、それを使って料理をしている人の交流会を行っている。平成 30 年度も 6 月に 1 度行い、料理人 21 名、生産者 32 名に来て頂いた。10 月 8 日、12 月以降にもこれを開催する。大変熱心に料理人、生産者や関係者との交流が進んでいる。8 月 31 日、「アルケッチャーノ」という山形県鶴岡で食についてすごく一生懸命行っている奥田さんというシェフがわざわざ恵那まで来て、ライブクッキングということで、市内の料理人が一緒になって料理を学ぶということを行った。大勢のお客さんにお越し頂いた。参加された方は非常に面白かったとおっしゃっていた。恵那市は食にはずいぶん可能性があると私は今でも思っている。

「くらす」について。恵那病院での出産がスタートした。昨年 8 月までで 102 件。市外の人で、主に中津川が多い。9 月以降は予約の数。市外の人が増えている。なぜかという、大変評判が良いという情報が母親たちに飛んでいる。それで近隣の人が押し寄せている。安心して産んで頂ける、産んだ後もきちんとケアして頂ける態勢が整った。

今年 4 月に、中野方に救急分遣所を開設した。笠周の 3 つの地域は救急では不利な地域で、場合によっては消防署をスタートして患者を乗せて病院に戻るまでに 1 時間近くかかるということだったので、救急車だけを中野方振興事務所に配備した。出動は 4 月から 8 月までで 19 件あった。少しでも地域の皆さんが安心して暮らせる取り組みだ。

防災関係では、気象情報の観測情報ということで、雨量計の設置を進めている。7 カ所。29 年度は東野、三郷、武並、笠置、串原に置き、30 年度は山岡町と明智町に置いた。管理型の水位計の設置は、県が行うが、明智川で行う。よりきめの細かい、雨量計、水位計を設けて少しでも事前に情報を皆さんにお知らせ出来るように引き続き取り組みたい。

ブロック塀の撤去。今年 6 月の大阪北部の地震でブロック塀が倒れて女の子が下敷きになるという痛ましい事故があった。これを受けて全国でブロック塀を撤去しようということになった。市が持っている、たとえば学校のブロック塀などは市が責任を持って行うが、通学路、避難路の途中で個人の皆さんがブロック塀を造っているケースをなんとかしたい

と、撤去のための補助金を制度化することを9月議会をお願いしている。予算総額600万円で、1件当たり30万円ぐらいの予算。補助率は2分の1ぐらい。知り合いに該当する家庭があれば活用頂きたい。

「くらす」では、瑞浪恵那道路は大変注目されている。日本中でも新規に国道の改良は進んでいないが、瑞浪恵那道路は、瑞浪工区、恵那工区、全線12.5kmはすべて事業が認可され、いよいよ400億円規模の道路改良、全線4車線化が動き始めた。リニア開通を9年後に控え、それまでにすべてが開通するということで、山岡地域からでも418号を通過してちょうどこの瑞浪恵那道路と交差する。ここからのアクセスもずいぶん早くなる。引き続き国への要望を含めて早期実現に向けて動いていきたい。

新丸山ダム。丸山ダムを新たにダム再生としてかさ上げする2千億円規模の事業。特に418号の改良が飯地町へ向かって今延びており、これが飯地町、北部地域の恵那市の玄関口になるということで大変な期待を持って今行っている。これも国の事業なので、私どもとしては地域の皆さんの熱意を伝えるということで取り組んでいる。

市街地では、正家第二土地区画整理事業がスタートしている。今警察の辺りはほとんど通行止めで入れなくなっている。19号の南側の辺りに大型の店舗がこの秋から冬にかけて柱が立ち始めるらしい。阿木川のすぐ横に60区画ぐらいの住宅団地が建ち始める。街がまた一つ大きく広がる。

この地域にも関係する移動手段の確保について。地域での有償運送はいいじ里山バスが28年にスタートしている。串原で10月から運行が開始する。山岡地域ではデマンド交通がいよいよ10月から動くようになる。「よやくる号」という名前で、事前に申し込みればかなり細かいバス停の中で近くまで迎えに上がる。1回300円だと思う。利用してほしい。もっとこうしてほしいという意見があれば寄せてほしい。改善を重ねながら使いやすいバスにしたい。

「農ある暮らしをしたい移住定住者支援」。農地を取得するのに、以前は3反ルール、30アールだったのを1アールまで引き下げている。昨年山岡の地域懇談会でも出された意見だったと思う。これを受けて農業委員会で見直しをして、今は0.1反でも農地が取得出来る。これで移住した人がすでに8月末で6件あった。移住する人も増えてきた。

暮らしてくれる人を増やそうということで、公営住宅の入居要件も緩和した。6月議会で色々な条例を見直した。市営住宅は市内で働いてないといけないという要件を緩和して今市外に住んでいても市営住宅に申し込みが出来ることにした。これによりすでに3件の申し込みを頂いた。飯地町の定住促進住宅。これも要件を緩和したところ、1件の申し込みを頂いた。上矢作の若者住宅は単身でも申し込み出来るようにした。農業の研修にも使って頂けることにしたところ2件の申し込みを頂いている。串原の公共賃貸住宅、要件を緩和したがこれは今のところ申し込みを頂いていない。もし誰かいれば紹介頂きたい。

太陽光発電設備の設置に関する条例も 9 月定例会で上程した。昨年の地域懇談会で、いくつかの地域からご意見を頂いた。下流側に住む人にとっては不安があるとか景観的に課題があるということで一部地域の皆さんから規制してほしいという声があった。ただし、市内には太陽光の事業者さんもある。利用している人があり、その近くに住んでいる人もあるということで、それぞれの立場の皆さんに集まって頂き整理してもらおう中で規制の条例を作った。ポイントは、「周辺の環境や自然災害への影響が懸念される区域は設置が適当でない」というように定めたいということ。20 年も経つと所有者が途中で移ったり会社が変わったりして誰のものか分からなくなる心配があるので、太陽光パネルを適正に配置して頂くために管理者を標識として掲示して頂く。廃止の届け出を義務化して、誰が行っているかを明確にする。これも条例で定める予定だ。そして、条例に従わない悪質な事業者に関しては指導及び勧告を行い、それでも従わない場合は一般に公表するという規制にした。これは県内でもほとんどない条例で、関係する皆様の努力で調整が整った。こうしたことで良好に、住む人にとっても安心して住める、事業をする人も、規制のあるところは避けて出来るところで行って頂くというすみ分けが出来ると思う。

「はたらく」「たべる」「くらす」に加えて今回は「まなぶ」というキーワードで少し用意した。

特に教育に関しては、まず、ICT教育に取り組んでいる。タブレット端末は 28 年度から 30 年度で、全体で 1 億 1900 万ほど。1 クラスがタブレットを使って学べる環境はすでに整っている。これは体育の授業。ビデオを撮りながら自分の悪いところを見て直していくという使い方。小学校 14 校で 438 台、すべての中学校で 230 台。今すべての小学校、中学校でタブレットを使った情報教育も行われている。

今年の夏は大変暑かった。エアコンの設置について色々な意見を頂いた。東濃 5 市もすべてエアコンの導入に向けて動き出したと思う。恵那市は普通教室を含めて全室数で 184 室あり、今エアコンが入っているのは 2 室だけ。多治見も 0、瑞浪も 0、中津川も 0。9 月の補正で 4200 万の設計費を盛り、議会にお願いするのだが、何とか全校エアコン設置に向けて取り組んでいきたい。学ぶ環境を少しでも過酷な環境から和らげる。早くやりたい。

その他では、武並小学校の体育館を 29 年度、3 億 3 千万円、東中学校の大規模改修も 29、30 年度の 2 カ年で大体 5 億 6 千万ぐらいかけて行っている。まきがね公園の大改修も今行っており、今年と来年で 4 億円ぐらい。恵那文化センターでも耐震を含めて、天井が落下してくる事件がたくさんあったのでそういった対応ということで概ね 2 億円ぐらいの事業で今取り組んでいる。環境を直すということが主軸になっている。

トピックス。ひとつはスポーツツーリズム。昨年秋、L1 という女性だけのラリーが岩村町を中心に行われ、大勢のお客さんにお越し頂いた。恵那市はほとんどお金を使わず、イベントが来ることでお客さんも来た。大変良い効果があったと思う。世界ラリー選手権

も計画が進んでおり、来年にもこの地域を車が走る予定だ。正式発表はこれからだが、もし本当にそうなればこの地域に多くのお客さんにお越し頂けるし、世界中に放映されるので注目されると思う。

2020年の東京オリンピックのポート・カヌーの事前キャンプ地ということで、恵那峡の下流側の笠置峡で誘致をすすめている。大変波のない静かな川を使って全長7kmを往復しながら練習して頂く予定もしている。2021年には冬季国体のスケートを恵那スケート場で行うことが決まっている。スポーツが全体に恵那の中でも盛り上がりによって多くのお客様にお越し頂けると思っている。

今年春からは「半分、青い。」のドラマが大ブレイクして、岩村はふくろう祭りを含めて大変多くのお客様に来て頂いた。岩村町の城下町の観光施設の入込客は29年度が3万8千人、30年度は17万人に届く。何倍にもなっている。ただ、岩村だけでなく、駅前の広重美術館はお客さんが34%増えている。山岡駅の寒天館も6割増えている。明智の浪漫亭は約3割増えている。ささゆりは、リニューアルの効果もあるが、現在までで28%のアップ。それぞれ周辺に及ぼす影響も非常に大きかった。2020年の大河ドラマは明智光秀だと発表されている。明智光秀の明智がどこの明智かは分からないが、私どもは恵那の明智だと思っている。またこういった効果が出てくると思う。2020年だが年度でいうと2019年度から始まる。来年度だ。今から予算を組んだり段取りをしないといけない。限られた時間の中で、前回の経験を生かして取り組むと良いと思っている。

市役所窓口の休日開庁。毎月最終の日曜日にオープンしている。窓口の職員が考えて、市民のためになることを自ら進んで行ってくれた。1月にスタートし9回ですでに875人。1回100人程度来て頂いている。4月の異動シーズンは平日でも混んでいるが、休日が開くことでお客様をお待たせする時間が減った。こういったサービスの充実にも努めていく。皆様方の意見を頂きたい。

ここからは山岡地域の計画について服部部長から申し上げる。

■企画部長 今日には多くの役員がみえている。私からは地域自治区の取り組みについて。もう一度山岡の地域計画について、どういう目標で何を行っているのかを含めて事業内容の紹介をする。

恵那市では第2次総合計画に合わせて13地域の自治区ごとに地域計画を作成している。地域の将来像を目指して地域課題に取り組んで頂いている。事業を実施する中でお金が必要になる。そこに地域のまちづくり補助金を毎年13地域の自治区、特に運営委員会の中で相談して頂き申請して頂き交付決定している。30年度、山岡町は7事業、186万2千円の交付決定をして事業の実施をして頂いている。地域計画は平成27年度に策定し、第2次総合計画と合わせてなので、期間は平成28年度から37年度の10カ年。キャッチフ

レーズは、「わたしも元気 地域も元気」みんなでいっしょにまちづくり。計画の柱が 4 つある。これからこの計画の柱に沿って主なものを紹介する。

計画の柱 1. 「青少年が健やかに育つまち」。山岡の青少年育成町民会議で活動している青パトを使った防犯活動、山岡子ども 110 番の家の関係の事業。山岡町にはミニパトが配置されている。青パトの導入計画は市内まちまちだが、恵那市の中では山岡と大井だけに導入され活用されている。登録件数は年々増えていると聞く。

計画の柱 2. やまおか健康・福祉事業。「安全で安心して暮らせるまち」。山岡健康福祉委員会が実施団体となっていて行っているもので、移動販売の運行。チャンキキ号という名称がついているようだ。毎週金曜日の午後に遠山地区 11 カ所回っている。毎月 80 名の利用がある。高齢者の移送サービス。10 月 1 日から山岡デマンド交通が始まるのに合わせて、デマンドのバス停と自宅の間を青パトで活用して送迎する。

計画の柱 3. 市の花「ささゆり」保護・育成事業。「山岡のよいところを生かすまち」。実施団体はささゆりの里クラブ委員会。内容はささゆりの保護と育成。6 月頃にささゆりが咲くので開花情報の発信。ささゆりの群生地草刈り整備。少し変わったところで、平成 27 年恵那農高がバイオにより生産育成した球根を畑に移植、平成 28 年度 1 本の開花だったが 29 年度は 20 本の開花と聞いている。

細寒天産業振興事業。計画の柱 3. 「山岡のよいところを生かす」事業。実施団体は寒天生産工業組合と山岡駅かんでんかん。岐阜女子大と恵那農高と連携し新たな細寒天の商品開発や調査研究。岐阜女子大学では新たな細寒天の商品開発で、寒天肉まんや寒天つくね、寒天ドレッシングなどを商品開発され、一部、現在商品化されている。恵那農高は寒天かすの堆肥化の研究というテーマで発表している。今年度第 4 回山岡寒天ふれあい祭り、今年は 9 月 30 日にいわくら公園で開催予定。

登り窯フェア事業。計画の柱 3. 「山岡のよいところを生かす」事業。実施団体は登り窯委員会。毎年多くのボランティア、約 200 人の参加を頂いて登り窯を焼き、登り窯フェアを実施する。今年度は 10 月 14 日山岡陶業文化センターで行われるようだ。

ふれあい朝市事業。計画の柱 3. 「山岡のよいところを生かす」事業。実施団体はふれあい朝市事業委員会。交流広場で 6 月から 12 月にかけてふれあい朝市が行われている。最初と最後は交流広場で遊ぼうという内容で、今年はリサイクル、リユースをテーマに、関連のイベントが実施されている。

交流・定住環境づくり事業。計画の柱 3. 「山岡のよいところを生かす」事業。実施団体は交流・定住事業委員会と林研クラブ。すでに 7 月 2 日に移住定住まちづくりフォーラムが実施され 40 名の参加があった。「だもんで山岡リフォーム塾」。今年は 7 月 21 日から 10 月 27 日の間で 5 回開催予定。今までに 2 回終了している。今後 3 回開催される。都度ご案内を町内に差し上げるということなので機会があれば参加頂きたい。



計画の柱 4. 山岡田んぼ de アート交流促進事業。「多くの町民が参加する活力あるまち」。実施団体は山岡元気プロジェクト。今年は 6 月 3 日に田植えイベントとして実施され 60 人ほどが参加された。平成 28 年度は色々な事情で断念されたが、その後山岡元気プロジェクトを発足して昨年度から実施している。今年は青森県の田んぼアートで有名な田舎館村から 7 色の古代米を取り寄せて色鮮やかな田んぼアートが出来た。「半分、青い。」効果もあるかと思いますが、多くの方が訪れているようだ。

地域自治区の中での取り組みを、計画の柱に沿って説明した。特に計画の柱 3 の「山岡のよいところを生かすまち」に今は集中して事業を実施している。今後もこういった事業を継続する中で、キャッチフレーズわたしも元気、地域も元気といったところを目指してほしい。

#### ■市長 山岡町の状況と事業等について。

人口の推移。人口は少し減っている。世帯数はほとんど変わっていない。日本中どこでもそうだが、1 世帯当たりの人口が若干減って世帯が分離している傾向がある。世帯が横ばいなのでまだこれから頑張る可能性がある。恵那市の町ごとの人口の推移の比較。平成 17 年を 100 としたとき、恵那市全体は -10.9%。山岡町では -18.4%。認識してほしい。生まれてくる子どもの数。一昨年は 19 名、昨年は 14 名。数字の凸凹はある。山岡で暮らして子どもを育てるということに少しずつ皆さんで取り組んでほしい。17 年を 100 としたとき 14 名で 48.1%減になる。数字が小さいので変動幅が大きい。小学校と中学校の生徒数予測。平成 30 年度が山岡小学校は 168 名、35 年度は 141 名になる。中学校は 90 名が 74 名になる。現状として認識してほしい。

山岡ではデマンド交通の「よやくる号」が 10 月 1 日からスタートする。月曜日から金曜日の平日、16 便。鶴岡と遠山に分けて 4 往復ずつする。1 回 300 円。ぜひ利用について色々な意見を頂きたい。

平成 30 年度事業として、山岡スクールバスの 2 号車の更新がある。3 月納車予定。現行のスクールバスをだましまし使っていたが新車にする。

県道事業。とんかつの「野内」さんのところ、瑞浪上矢作線の道路改良。平成 29 年度 5 千万、平成 30 年度 1500 万の事業で工事している。県事業で県に対しても少しでも早く行ってほしいと一生懸命お願いしている。引き続き地域の皆様の声を頂いて要望していきたい。

県の事業で、小里川の河川改修。河川の断面を広げる。区域はこの橋から田沢の橋まで。平成 30 年度 1000 万を予定している。道路と橋梁の詳細設計、用地の測量を行う。駅前橋のこの付近を行う。

全体を見て、担当で山岡の魅力をもう一度見直してみようということで探して頂いた。

何といってもおばあちゃん市・山岡。お客さんの数は圧倒的に多い。「半分、青い。」の岩村、明智光秀の明智と言っている中で、山岡にもすごく良いところがたくさんある。それがおばあちゃん市・山岡、山岡駅かてんかん館。花白温泉もあるし、飯高観音はその時期には本当に大勢のお客さんにお越し頂ける。観光施設もある。「ふわり」のそば屋、「ミル」のコーヒー屋さん、「がらん」、「ほやら」、「まんまカフェ」といったカフェもすごく充実している。こういったところはなかなか他の地域にはなく、山岡独自の魅力だと見ている。こういった中で山岡らしいまちづくり、魅力づくりは、可能性としてはぜひいぶん広がると思う。

スライドにはないが、中学校の統合について少し申し上げる。9月の一般質問でも出た。平成33年までに1校に統合、山岡町内で新設という答申がされている。それに関して、どうなっているんだという質問を頂いた。私としては、選挙のときに色々なご意見を頂く中で、18の検討課題に整理し18項目それぞれについて検討をしている。少し時間がかかっていて申し訳なかったが、残り4つの項目を整理して、皆様に色々なご意見を頂きながら進めていきたい。改めて、最初から整理して皆様に説明出来るような材料をそろえたいと申し上げていたので、そのあたりご了承頂けると有り難い。

## 5. 意見交換

■市民1 明知鉄道の高校生の利用料金について。現在明知鉄道を利用して恵那南高校に通う生徒には定期代の半額補助がある。しかし、それ以外の高校への通学には助成制度がない。親としては差別感がぬぐえない。この点について、今後請願なりを出せば検討して頂けるか。

■市長 私が職員だった頃、恵那南高校の存続に関して取りざたされたことがあった。生徒の確保をしないといけないとか、もっと活性化しないといけないなど、色々な議論が起きた。その中で、市として出来る方策として通学費用を半額助成して負担を軽減するということで、3年か5年間の期間限定の制度だったと思う。今3年目ぐらいだ。これに関しては、期間が終了する段階で一度その効果を整理し、継続するのか、他の高校に対しても行うのかという判断になる。今の時点でどうするかは白紙だ。

■市民2 市長には今年の夏祭りに激励を頂きありがとうございました。16日の爪切地蔵の祈祷には副市長が来てくれてありがとうございました。

今日は政策の3本柱、たくさん説明を頂いた。その中の7つの基本項目で、便利に暮らすということで市長が提案している主要道路について。前々から山田地区からは、たくさんの要望が出ている。現在当地区は国道363号線がある。私たち恵南地区としてもなくてはならない生活道路だ。瑞恵バイパスも着工するということだが、恵南地区が一番大事

なのが 363 号だ。今 7 町村の都市をまたいで、起点は名古屋市名東区、そこから名古屋第二環状線を通して尾張旭、瀬戸、土岐、瑞浪、恵那市、中津川市まで通じる全長 80.7km の道路だ。工事の内容を見ると、363 号のバイパス関係は隣の陶バイパス、本当に立派になっている。柿野バイパス、瀬戸バイパス、本当に立派なバイパスが出来ている。残念ながら花白バイパスは未だ 1.2km が未改良だ。地元としても、あるいは岩村、明智、山岡も通勤車両が大変多いが、バイパス計画は凍結状態で大変悲しい。若い市長に頑張って頂き、1 年も早く貫通工事着工をお願いしたい。現在どうなっているかお答え頂きたい。

■市長 363 号は県の所管で今改良を進めている。瑞浪恵那道路もそうだが、418 号、363 号を含めて、上矢作も含めて、それぞれの所管の管理者に強い要望を行っている。国にとっても県にとっても、地元の皆様の熱い思いで道路は動きますと言われるので、私どもも皆様の力を借り一生懸命動かしている。ただし、色々な事情があり、363 号の特に花白バイパスは 1 mm も動いていないと県議もいつも言われている。そのあたりの事情は山岡町出身の建設課長が説明する。

■建設課長 363 号の花白バイパスは私が山岡町の職員だったときからの課題だ。16 年に合併してから 14 年経ってもまだ進展がない。ただ地元の水野県議は非常に気にしていて、県にはかなりの働きかけしている。先日も県の用地の担当者は、用地の問題が非常に大きくてそのことが課題になっているが事業が止まったわけではないと言っている。私も毎日あそこを通る。非常に危ないところだ。地元の方々の声を大にして頂き要望をかけて頂くのが重要だ。引き続きよろしくお願ひします。

用地の関係で、詳細は言えないが抵当権が設定されている。土地に抵当権が設定されるのだが、抵当権者が一般の銀行の人ではない。例えば、県が用地を買いに行ったときの費用と、相手側が設定している金額が折り合いが全然合わない。その問題を片付けないと土地の権利を県に移すことが出来ない。そこが頭を悩ましているところだ。一番問題になっているところだ。

■市民 2 場所はニューキャピタルの入り口の右側の三角のところ。面積的にはあまり大きな面積ではない。2、3 畝の。

■建設課長 大きくはないが、場所的にはご存じだと思うが、そこも通るということ。すでにトンネルのボーリング調査も行っていて、土質関係はすでに把握されている。少しでもかかれば権利関係、用地の取得が必要になるので、そのことで止まっている。

■副市長 いつ解決するかは答えづらい。県がどう踏み切るかということだ。今年に入り、古屋代議士が 363 号のバイパスについてはしっかり行ってくれと知事にも話された。知事も心配されているが、抵当権の問題があるのでもう少し時間を頂きたい。

■市民 3 2 点質問する。1 点目。「半分、青い。」で岩村が伸びている。NHK「西郷ど

ん」がやっている。西郷さんは沖永良部島に島流しになった時、言志四録を持っていき、地元の人に非常に熱心に教育をした。西郷さんは沖永良部島では貢献したということだ。期待していたが、沖永良部島がドラマで出たとき言志四録は一切出なかった。恵那市には観光大使がみえる。1年前に脚本家のところに行って働きかければ言志四録も全国的にアップしていたと思う。恵那市の観光大使にもっと目配りして頂ければ有り難かった。ということでアドバイスさせて頂いた。また明智も何らかの形で動けば明智がまたヒットすると思う。

2 点目。「くらす」。私はここから 300m以内のところに住んでいる。すぐ前に教員住宅がある。今は 2 人ほど入っている。2 年ぐらい周りの草刈りが全然されていない。これで教師がよく務まると思う。教育委員会として管理状態にあるかどうか知りたい。1 年間の計画のなかで、学校を見ることも必要だが、先生がどういうスタイルで生活されているかも目安になるのではないか。もう一つ。小学校から釜屋へ抜ける小さな道があるが、その法面の木が大きくなり、その下の個人の土地の植林だが、木が曲がって伸びている。10 年ほど、何とかならないかと発言したこともあるが、法面の大木は現在管理状態なのか。

■市長 西郷どんについて。「南洲手抄言志録」を西郷隆盛が作ったので、取り上げてもらえるといいと僕も思っていた。観光大使の久保田先生もずっとそのことをおっしゃっていた。力足らずで実現せず申し訳なかった。すでに撮影はほぼ終了に近いと思うので次への反省とする。「半分、青い。」脚本家の北川悦吏子さんは美濃加茂出身でお母さんが笠置で、よしだや旅館が実家。その縁で恵那辺りのものを取り上げて頂いたのだろうと思う。特に恵那をピーアールしたわけではないが、撮影に来たNHKの皆さんは、岩村、恵那など地元の方によくして頂いたと今も言われている。岐阜県全体のイメージがすごく上がったと思う。来年以降の明智光秀は、副市長が明智出身なのでコメントしてもらおう。服部部長は岩村出身なのでコメントしてもらおう。

教員住宅の管理と小学校の法面の木の件については、早速持ち帰り教育委員会に指示を出しすぐ確認する。常に教育委員会としても管理者として見ているわけではないので、通報を頂ければその都度見せて頂くことになる。

■副市長 明智光秀については、岐阜県全体に明智光秀の出生地だということがあるところがあるので、それらを束ねて今回協議会を立ち上げる。会長には知事が就き、自らリーダーシップを取って市町村を動かしていく。内容については知事も手が出しにくいと言っている。ただ、「半分、青い。」は知事が北川悦吏子さんにぜひ岐阜県をテーマにドラマの小説を作ってくれということから始まったということで、知事は非常に思い入れがあって、特にお客さんがたくさん岩村に押しかけてきたときには、その段取りが悪すぎると副知事から直に電話がかかってきて、こういうことを対応してくれという話があった。今回は明智光秀がテーマなので、そういったことがないようにしっかり前段階からスタートし

ていきたい。「半分、青い。」のように明智から全体に波及していくことが大事だという考え方でやりたい。

■企画部長 「半分、青い。」の経緯は市長、副市長が申し上げた通り。地元では受け入れ態勢ということで市にお任せではなく、「ふくろう祭り」のようなイベントを地元の観光協会で引き受け、しかも、まちづくり団体がそれを支援、バックアップするという形で今まで取り組んできている。9月で放送終了になる。中盤から後半にかけて危惧していたのは、放送が終わった後に訪れる人がガタンと減ってしまわないように、その仕掛けをどのようにしたら良いか、また終わった後もイベント等を通じて多くの人に訪れて頂くにはどうしたら良いか、地元はそういったことを一生懸命考えている。明智光秀の関係も、事前の働きかけも大事だが、終わった後になれば必ず人が減るので、そういうことも最初から考えて取り組んでいく必要があると思っている。

■市民 4 田沢地区は明知鉄道の向こう側で、普通はあまり通らないようなところで、店は1軒もなく自販機が3つあるぐらいのところだ。私たちが住んでいる奥には人家がなく集落の奥は山だけで、きれいな水と空気と森があるというところだ。6月にそこで産廃の最終処分場を建設する計画が持ち上がり、区民は絶対反対という意志を固めている。市の環境課や振興事務所にも相談に乗って頂きながら対応している。この場でそんな話をする機会ではないと思うので、また局面が変わって業者が動き始めたというようなところでは市長にぜひ相談に乗って頂きたい。

それを前振りとして、恵那市を空から見たら大部分は森林。私たちが直面している山の問題を含め、昔のチョンマゲを結っていた時代から、川掃除、林道の草刈り、道造りという言葉がずっと残っているが、共同作業で山を手入れし川を手入れし田んぼを手入れし営々とやってきたところだ。が、最近は私どもも山へ行く機会が少なくなった。たまに行くと不法投棄でタイヤや液体の瓶の割れたの等が目につく。恵那市の事業の中に「みんなの道愛護事業」というのがある。あれは道造りなどを伝統としてボランティアでやってきたことを市が後押ししてくれるものだと思う。予算措置をしてくれる。そのように、山に関しても、「みんなの山愛護事業」でも「青い山づくり事業」でも良いので、良い名称を作って、ぜひ恵那の市民みんなが山に入ってごみを拾うとか森林を楽しむとか、山をもっと大切にするような活動を施策に入れて頂きたい。基本目標3の中の、まちの魅力を高めるという市の主な事業の中には、森林保全促進事業があるので、こういうものをぜひ強化して頂きたい。そうすることが、空気、風、森、水、かけがえのない財産、山岡の魅力、他の地域に負けないそういうものを大切にしていくことになると思う。山岡だけでなく恵那がそういうまちになることが大切なことだと思う。ぜひ保全事業を強化してほしい。

■市長 産廃の件は後藤議長からときどき相談を受けている。非常に困っているという話

だ。どれだけのことが出来るか分からないが、出来る限り地元の皆さんが困らないように、アドバイスなり、相談には乗らせてもらう。ぜひ意見、声をお聞かせ頂きたい。

山の管理、保全について。一つは、岩村で城山の国有地を過去に購入した。そうしたら、名古屋城の再建に当たり、その自然林を名古屋城に使いたいという話を頂き、売却する予算も計上した。過去に大切に守られた森林という財産が一つの大きな、皆さんに喜んで頂ける形で貢献出来ると大変喜んでいる。そういう意味で、山岡の山を守っていく方法も何かあるのではということだが、一つ考えられるのは、来年度からスタートする森林環境税。課税はもう少し後になるが、交付金は先行する。恵那市も 1 億円ぐらい交付が受けられる予定だ。名前の通り、森林の保全、環境の保全のために使える補助金だ。全国的に森林の保全、管理が行き届かない中で、これからどうしていくかは日本挙げての課題だ。所有者も手放したい、管理が出来ない、それが山崩れなど災害につながる。そういったものを抜本的に解決するための糸口、第一歩が森林環境税だと言われている。その用途については、皆さんで取り組まれるような事業メニューも入っているので、それも勘案し、皆様の声を届けて頂く中、林政担当でメニュー化していきたい。

■市民 5 NPOまちづくり山岡です。一つだけ質問する。7 つの事業を受け持っている。補助金を頂き非常に有り難いが、補助金となると規制がかかり過ぎて伸びていきにくい。補助金ではなく交付金で頂けると、自由が効いて、続けるけるための利益を得やすくなると思うがどうか。

■企画部長 山岡の地域計画の中で補助金を使って色々行って頂いている。他の地域自治区からも同じような話が出ることもある。すべて交付金で自由に使ってくださいというのは、程度問題だが、現在でも事務補助で、基準額 130 万円と人口割を若干上載しある程度自由に使える交付金の形で交付している。その他に、山岡では本年度 7 つの事業で申請頂き、審査した中で 186 万 2 千円を交付している。この辺は一つの課題として、交付金の割合を増やすなどのことは検討していきたい。

■司会 前向きに検討してほしい。

## 6. 市長お礼のあいさつ

■市長 熱心にご意見を頂きありがとうございました。色々なことを皆様からお聞きして決めるなり進めていきたい。お話を頂いたことを持ち帰り、担当と詰めて、フィードバック出来るように考えていきたい。色々なご意見をありがとうございました。

[ 閉 会 ]